

## [034]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/4110736>

---

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 34, pp.1-, 2020-10. 九州大学総合研究博物館  
バージョン：  
権利関係：



# NEWS

The Kyushu University Museum

九州大学総合研究博物館ニュース

No. **34**  
october, 2020

## 祝・博物館創設20周年

2000年4月の創設以来、当館は九州大学百年の歴史を通じて蓄積された膨大な標本・資料の学術的価値を追求し、その成果を展示として紹介してきました。コロナ禍の中、みなさんと一緒に博物館で20周年を祝うことができないのは残念ですが、これに代わるオンライン展示を含め、今後も活動を継続してまいります。今後とも、ご支援を賜りますようお願いいたします。

総合研究博物館第8代館長 緒方 一夫



博物館設置時記念写真(2000年)

写真と年表で振り返る

# 総合研究博物館 20周年記念特集



2000年4月1日に学内共同研究施設として設置された総合研究博物館は、今年で設立20周年を迎えました。当初は展示室も収蔵庫もない状態でしたが、その必要性を訴える努力と皆様の支援により、現在は箱崎地区の旧工学部本館を拠点に約145万点の標本・資料を収蔵し、研究・教育・展示活動を続けています。

これからも、これらの標本・資料を未来へ継承し、科学的探究の楽しさを皆様と共有する場でありつづけることを、ここに改めてお誓いします。

|      |      |                                                                                                         |
|------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2000 | 平成12 | 九州大学総合研究博物館創設                                                                                           |
| 2002 | 平成14 | 五十周年記念講堂2・3階に常設展示を設置                                                                                    |
| 2003 | 平成15 | 九州大学が九州芸術工科大学と統合                                                                                        |
| 2005 | 平成17 | 工学部の箱崎地区から伊都地区への移転開始<br>旧工学部知能機械実習工場2階の使用開始。古人骨資料・脊椎動物骨格標本が医学部から移管される。<br>博物館ロゴマークが決定                   |
| 2006 | 平成18 | 旧工学部知能機械実習工場1階の使用開始                                                                                     |
| 2007 | 平成19 | 旧工学部本館の使用開始<br>旧工学部知能機械実習工場へ考古学資料を搬入する                                                                  |
| 2008 | 平成20 | 旧工学部本館4階会議室の管理が当館に移される<br>旧工学部本館に常設展示室オープン<br>六本松地区から玉泉館考古学資料が移される<br>旧工学部知能機械実習工場を第一分館、旧工学部4号館を第二分館と命名 |
| 2009 | 平成21 | 六本松地区が伊都地区へ移転                                                                                           |
| 2010 | 平成22 | プロモーションDVDの制作開始(2012年6月完成)                                                                              |
| 2012 | 平成24 | 前田晴良教授の着任に伴う化石資料の充実<br>木製什物の保管場所として旧機械工学実験室が認められる                                                       |
| 2014 | 平成26 | 工学部4号館2階に昆虫標本を収蔵<br>旧工学部2号館残置の装置が移管され、旧保存図書館地下室に保管                                                      |
| 2015 | 平成27 | 工学列品室の移管と部屋使用が追認される。<br>第一分館の解体に伴い、資料を旧保存図書館へ移転し、第三分館とする<br>理学部が箱崎地区から伊都地区へ移転                           |
| 2018 | 平成30 | メインキャンパスが箱崎地区から伊都地区へ移転完了<br>標本・資料を旧工学部本館に集約し開示室をオープン                                                    |
| 2019 | 令和1  | 旧工学部本館内廊下の展示の充実                                                                                         |
| 2020 | 令和2  | 現在当館が所蔵する資料は、<br>自然史系資料133,889点、技術史系資料11,420点、<br>社会・文化・歴史系資料41,477点、<br>総計1,456,501点に及び                |

- ① 設置時に教員室が置かれた旧印刷所に博物館の看板を掛ける湯川淳一初代館長。看板は杉岡洋一総長(当時)の揮毫によるもの。(2000年)
- ② 第1回公開展示「森・水・人」のオープニングセレモニー。福岡市博物館にて。(2000年)
- ③ 特別展示「地球惑星科学への招待」展示の様子。当時は学内に展示施設を持たず、五十周年記念講堂で展示を行っていました。(2001年)
- ④ 第6回公開展示「自然界のなかたち」展示の様子。福岡市立少年科学文化会館にて。(2005年)
- ⑤ 旧工学部3階9番講義室を改装して常設展示室がオープン。多田内修館長(当時)(左)と梶山千里総長(当時)(右)によるテープカット。(2008年)
- ⑥ プロモーションビデオ「キラクノトビラ」。2010年に撮影し、2012年に完成しました。写真は第一分館1階での一場面。
- ⑦ 第12回公開展示「九州大学百年の宝物」展示の様子。九州国立博物館にて。(2011年)
- ⑧ キャンパス移転の本格化に伴い、2015年に第一分館が取り壊しに。収蔵資料と関連資料を旧保存図書館に移転しました。写真は五十周年記念講堂から運び出される動物骨。(2015年)
- ⑨ 第三分館に移転された動物骨。第三分館には、このほか人骨資料と高壮吉鉱物標本が収蔵されています。写真は開学記念日の一般公開の様子。(2017年)
- ⑩ キャンパス移転の裏で廃棄されそうになった歴史的什物のレスキューも行ってきました。救済された什物の一部は、現在、各開示室で展示棚として活躍中です。写真は文系建物からの運び出しのときのもの。(2018年)
- ⑪ 2018年秋、箱崎キャンパスからの移転完了に伴い、分散していた資料を旧工学部本館に集約。各分野の標本・資料を収蔵展示する「開示室」をオープンしました。2019年には廊下の展示も整備。(2019年)
- ⑫ 博物館では、福岡市内の小中学校の課外授業の受け入れや出張博物館、サイエンスカフェなどの教育・普及活動も行ってきました。写真は旧工学部本館・壁画の会議室での課外授業の様子。(2019年)

web 展示

# 九大博 20年ものがり

谷澤 亜里 開示研究系・助教  
米元 史織 開示研究系・助教

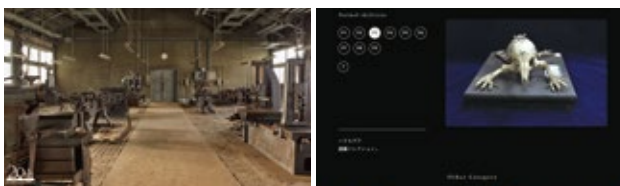
公開 2020年10月27日(火)～

URL <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/kyudaihaku20th/index.html>

本年度は、「創設 20周年記念展示」として、常設展示室特別展示コーナーにて 4 期にわたるリレー展示を行う計画を立てていました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、これらの展示は残念ながら実現が難しくなりましたが、リレー展示第一弾として企画していた「九大博20年ものがり」の内容をより充実させ、web展示として実施することにしました。

本ウェブサイトでは、博物館創設の経緯とこれまでの活動を写真とともに振り返るほか、分野ごとに標本・資料とその歴史を紹介するアーカイブページや、博物館創設関係者からの特別寄稿のページも設けました。また、webならではのノベルティとして、オンライン会議用のバーチャル背景とLINEスタンプもダウンロードいただけます。ウェブサイトの企画・制作にあたっては、テッシンデザインの皆様にも大変お世話になりました。

リアルな標本・資料たちとの出会いの場としての博物館の役割を果たすことができず、もどかしい気持ちもありますが、この web 展示を通じて、当館をより身近に感じていただければ幸いです。



web 展示

# ぐるっと九大博 旧工学部本館パノラマビュー

谷澤 亜里 開示研究系・助教

公開 2020年6月15日(月)～

URL <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/panoramaview/index.html>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総合研究博物館は 2020 年 3 月よりやむを得ず臨時休館することとなりました。臨時休館のあいだ、ご自宅から博物館の展示を楽しんでいたため企画として、箱崎地区旧工学部本館と、各分野の「開示室」を紹介する web 展示をオープンしました。

総合研究博物館の活動拠点である箱崎地区旧工学部本館は、1930年に竣工した歴史ある建物です。工学部が伊都キャンパスへと移転した後、2008年に総合研究博物館常設展示室がオープンし、さらに 2018年には各分野の標本・資料の収蔵展示を行う10室の「開示室」が新たにオープンしました。以降、工学部列品室、壁画の会議室とともに年に 2 回ほど不定期で一般公開を行ってきましたが、今年度は公開の見通しが立たず、



オンラインでの公開を企画した次第です。

この展示では、360度パノラマ写真を用いており、部屋の中を 360度ぐるっと見渡したり、見たい部分をズームしたりすることができます。360度撮影は、うっかりすると撮影者も映り込んでしまうため、工夫しながらの撮影となりました。各開示室では、分野を代表する貴重な資料が展示されており、移転の際に救済された歴史的什器も展示棚として活躍しています。その場にいる気分で、じっくりと web 展示をお楽しみいただければと思います。

## COLUMN ①

### 幻の大学博物館等協議会



毎年 6 月に「大学博物館等協議会・日本博物科学会学術大会」が各大学博物館回り持ちで開かれます。これは館長らトップによる実務会議に加え、一般の研究発表も併せて行うユニークな大会で、昨年度は秋田大学で開催されました。

今年は 6 月 18 日から九州大学総合研究博物館で開催する予定でした。2 月 28 日には協議会会長である京都大学総合博物館の永益館長と事務官 2 名が九大の準備状況を直々に視察しに來られ、GO サインが出ました。しかし COVID-19 の非常事態宣

前田 晴良 分析技術開発系・教授

言が出されたため、完成済みの開催案内(写真)の公表をギリギリまで延ばしました。しかし事態は好転せず、中止という判断に至り、結局、九大大会は「幻の大会」になりました。いつの日か「倍返し」で開催です。



「九州大学 AsiaWeek2020」での総合研究博物館・附属図書館・大学文書館による電子展示

# 九州大学のコレクション

## — 大学創設期のアジア学術交流と古地図 —

福井 啓介 附属図書館・利用者サービス課長

公開 ● 2020年9月1日(火)～

URL ● <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/exhibition/asiaweek2020>

新型コロナウイルス感染症流行の影響で、人を集客した展示会は自粛や規制により、開催の制限や停止を余儀なくされています。今回の電子展示(Webサイト)は、“館”に集客するリアルな展示会の代替手段としての試みであり、記念すべき九州大学で初めての3館連携(博物館、図書館、文書館)での展示となりました。九州大学主催イベント「AsiaWeek 2020」の特別展示という位置づけでしたので、九州大学に所蔵しているアジアに関する資料を念頭に、IIIF(International Image Interoperability Framework)の国際規格を活用する事も3館で合意してテーマを考えていきました。この展示は、九大創設期に活躍された方々のコレクションのアジアに関する資料を紹介するとともに、学術交流にスポットを当てた内容になっています。いくつかご紹介いたします。

博物館資料からは、「蛸壺(カキの貝殻入り)」を紹介します。玉泉館コレクションにある中山平次郎先生の資料です(写真1)。ObjectVRにより、ユーザーが資料を360°回転させることができます。デジタル展示ならではのと言えるでしょう。図書館資料からは、「福岡城下町・博多・近隣古図」を紹介します(写真2)。

地図には注釈が書き込まれていますが、その部分にマウスを置くと注釈の翻字や解説が表示されます。このようにIIIFの機能を使うことにより資料についての情報を簡単に得ることができます。文書館からは、「昭和八年進退書類 農学部」を紹介します(写真3)。これは、教員の海外出張記録や手続き書類になります。こうした文書により、大学に現存する貴重な資料が教員の海外活動の賜物という裏付けが取れます。

最後に。当初描いた理想的な形まではいけませんでした。複数の図書館職員が振り返って、話した言葉をお伝えします。「もっと面白いものができたはず!」

3館が力を合わせれば、もっと素晴らしいことができます!

- ① 蛸壺(カキの貝殻入り)  
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/objectVR/005/005.html>  
(説明: <http://hdl.handle.net/2324/4066888>)
- ② 福岡城下町・博多・近隣古図  
[https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/exhibition/1523931\\_annotation](https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/exhibition/1523931_annotation)
- ③ Room 昭和八年進退書類 農学部  
<http://hdl.handle.net/2324/4066914>

### COLUMN②

## ハサミムシの扇子 — コロナ禍でもワークショップのタネを撒きたい

福原 美恵子 技術補佐員



ハサミムシの翅の折り畳みについての美しい動画(Origami tricks learned from insect wings enable highly collapsible structures)がリリースされ話題になっています。芸術工学研究院の斉藤一哉講師らは、ハサミムシの翅の複雑な折り畳みパターンが極めてシンプルで幾何学的なルールで作図できることを明らかにしたのです。コンパスと定規という身近な道具での作図の方法も公開されている

ので、折りたためるハサミムシの翅の扇子(写真)を作り、当館のツイッターでつぶやきました。そのツイートが縁になり協働の可能性を手探りしています。小学生にはペーパークラフトを通じて生き物の形の不思議を、幾何学を勉強している中学生や高校生には学んだことがモノづくりや自然を観察する上でどんな役に立つのかを伝えるワークショップができればとアイデアを交換しています。

令和2年7月豪雨被害に伴う

# 「人吉城歴史館・前原勘次郎植物標本」 の標本レスキュー

三島 美佐子 開示研究系・准教授

当館では現在、「令和2年7月豪雨」で被害を受けた「人吉城歴史館」の標本レスキューに携わっています。「人吉城歴史館」はこの豪雨で2mほど浸水し、離れの蔵に保管されていた「前原勘次郎植物標本」も被災しました。



この植物標本は、戦前、熊本県立人吉高等女学校に務めていた前原勘次郎氏(1890-1975)により収集されたものです。氏は、1931年天覧に供した55種の標本が持ち帰りになったことを記念し、『南肥植物誌』(1932年)を刊行しました<sup>\*1</sup>。このコレクションはその『南肥植物誌』の証拠標本であり、地方植物史としてはもちろんのこと、植物学的にも貴重なコレクションでした。

今回、夏場の淡水被害であったことから、まずは腐敗やカビの発生を食い止めるべく、全国の自然史関係機関に低温環境での一時保管への協力依頼がなされました。被災地からの標本運び出しと発送作業を担う熊本県博物館ネットワークセンター(松橋)から依頼を受け、当館は、発送用の空き段ボール箱提供のためセンターを訪問しました。(①)この時は、最終移転で使った標本運搬用の空箱を保管していたのが、期せずして役立ちました。なお、伊都キャンパスからの箱の搬出時には、生物学科生態学講座の学生さん2名が手伝いに来てくれました。

帰りがてら、一番状態が悪い(水没して泥にまみれ、早急に保冷が必要)と思われる標本を、一部引き取りました。それらは現在、当館にある標本殺虫用の超低温冷凍庫と、保管協力を申し出てくれた篠栗演習林の冷凍庫に、-20度で保管して



います。洗浄作業のために解凍する標本の一時仮置きには、生物学科分子遺伝学講座が、伊都キャンパス理学部棟内にある低温室スペースの一部を提供してくれています。

9月に入ってから、先に作業を進めている福島大学に助言を頂きつつ、博物館実習の履修学生さんらとともに洗浄・乾燥を開始しました(②③)。標本を挟んでいる新聞紙が、

大正時代から昭和初期にかけての関西～九州地方紙で、それ自体も興味深いものです。作業に携わった学生さんには、標本に対してのみならず、古い新聞紙に対しても敬意の念が生じたようです。また、「少しでも被災地の役に立てたかもしれない」と喜んでいました。

現在、40を超える博物館や大学・研究機関等がこのレスキューを支援していますが、緊急対応であったため、一部の輸送費や保管費などが課題となっています。昨今の局所的な大雨被害をみていると、今回の人吉市のような水害が、都市部を含めどこで起きてもおかしくないような状況です。今後、行政、博物館、大学や研究機関、企業などが連携した互助・公助の体制や予算積み立て、緊急時対応のフローについて、本気で構築していく必要があると感じています。

<sup>\*1</sup> 田川基二 1932「前原勘次郎氏：南肥植物誌」植物分類、地理1(2)：209-210。

① 熊本県博物館ネットワークセンターの仮置き室。低温保管や、3万点に及ぶ被災標本の保管は困難な状況だった。

②③ 実習での修復作業の様子

## COLUMN③

### 『驚異の標本箱 一昆虫一』を出版

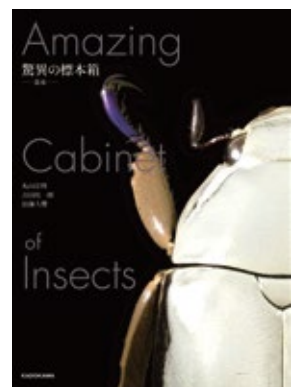
丸山 宗利・吉田 攻一郎・法師人 響 著／KADOKAWA より10月16日発行

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

このたび昆虫の大型写真集を出版することになりました。昆虫を拡大すると、ものすごい構造があるのですが、それらは非常に美しく、面白いものです。道端にいるような昆

虫にも、実は拡大すると驚きの世界があります。しかし多くの人はそのことを知りません。いろいろな昆虫を対象とし、その世界を皆さんに知っていただきたいと思い、最新の撮

影技術を駆使して制作しました。フルニエフタオチョウや絶滅したスジゲンゴロウなど、当館収蔵の貴重な標本も被写体となっています。ぜひご覧ください。



博物館 20 周年に寄せて

# ポンチ絵からSPレコードまで

— 九州大学総合研究博物館をめぐる私的回想 —

有馬 学 福岡市博物館総館長／九州大学名誉教授



日本の大学（個人ではない）は何の哲学も見識も持ち合わせていないので、組織改編の過程で資料保存の体制が極めて不安定になりがちなのである。

それはそれとして、概算要求をめざす対文部省交渉は通常の概算要求にも増して難航した。ほとんど愚行としか言いようのないやりとりのディテールをここで述べても意味は無いだろう。部門の名称を見ただけではどのような資料を扱うのか全く読み取れない組織構成も、別に先進的なアイデアに基づいていたわけではない。そもそもそれは、私たちの主張ではなかった。見かけ上の目新しさを持ち出さなければ、査定官庁を説

得できなかったのだろう。要するに役所の担当者自身が、大学博物館の必要性について確信を持っていなかったのである。学術審議会の報告を受け取っているにも関わらず！

大学博物館をめぐるそのような混乱は、同時代の大学改革の一部である。そんな時代が生んだ、笑うべくして笑えない遺産について述べておきたい。今に残る、官庁用語で言うところのポンチ絵である。

大学改革に伴う膨大な資料作成業務の発生は、インターネットがようやく普及しはじめ、ITがまだ目新しい用語であった時代に重なっている。そのころ、マイクロソフトのワードでようやく簡単な図が書けるようになった。図と言っても、丸や三角や四角の枠の中にキーワードを並べ、それを矢印でつなぐ程度のものである。もちろん色など着いていない。そんな幼稚な図でも、役所の説明には便利だったらしい。というより、もっともらしく見えたのだろう。やがて概算要求の説明資料に図を付けることが、意味があるろうと無かろうと必須の要求となっていく。

馬鹿馬鹿しさに呆れた誰かが、それをポンチ絵と呼んだのだろう。私たちは半ばふて腐れ気味に、「やっぱりポンチ絵付けろってさ」などと吐き捨てたものである。ポンチ絵は大学人の自虐表現に始まるのであり、そもそも大手を振って表通りを闊歩するような言葉ではないのだ。中にはマンガという人もいた。語源的に全く正しい表現である。

いま Web 辞書の類を見ると、風刺画、漫画という本来の意味とともに、概略図とか構想図という説明が何の留保

現在 Web 辞書の類を見ると、風刺画、漫画という本来の意味とともに、概略図とか構想図という説明が何の留保

現在 Web 辞書の類を見ると、風刺画、漫画という本来の意味とともに、概略図とか構想図という説明が何の留保

現在 Web 辞書の類を見ると、風刺画、漫画という本来の意味とともに、概略図とか構想図という説明が何の留保

もなしに並んでいて、私などは驚倒してしまう。本来の語義と懸け離れた使われ方は、日本語の柔軟性を示すものかもしれないが、なぜそうなったかは記憶しておいた方がいい。さもないと、自分がどれだけ馬鹿になったか分からなくなるではないか。

この笑えない遺産は、大学改革とその一部をなす博物館設置のプロセスが孕んだ問題を、象徴的に示していると思う。だが他方で、これら混乱のかかなりの部分は、それまで国民に対する説明の努力を怠ってきた大学人の責任でもあるのだ。そもそも、私が不満たらたら回顧する文部省の対応に対して、そのころの私たちの(人のことは言わず私自身の)ミュージアム観はどの程度に正当なものだっただろうか。実はそこにこそ、いま大学博物館を考える上での最も重要な主題が隠れていると思う。

私自身の現在のミュージアム観に照らして回顧すれば、概算要求に向けての作業は大学人の内向き志向を出ていなかったと思う。なるほど社会連携は最初から謳われていた。しかしそれはどうすれば可能なのか。それはどのように大学の知のあり方に還流するのか。当時の私たちの思考は、そこにまともに切り込む視点を持たなかった。



いま私がそんなことを考えるのは、退職後にはからず福岡市博物館長を委嘱され、自身が博物館の“中の人”となった事によるところが大きい。しかしそれ以上に私の視野を広げてくれたのは、九州大学総合研究博物館の活動そのものである。

出来上がった九大博物館と私の直接の関わりは、朝倉郡宝珠山村(現東峰村)の廃校になった中学校を拠点に、独自の文化活動を行っていた田村悟史氏(故人)のコレクションをめぐるものであった(『九州大学総合研究博物館ニュース』27号の拙稿参照)。コレクションの中核をなす数万枚のSPレコードは、骨董品的な名器とされる蓄音器(これも田村コレクション)でのコンサートもあって、今や知る人ぞ知る存在となっている。これらの歴大な資料を引

き受けた三島美佐子准教授の腹の据わった決断力には驚かされた。

三島さんを中心とした活動はSPコンサート以外にも、大学の機械類を用いたアーティスティックな展示や、最近では大学移転に伴って廃棄される運命にあった木造家具類の、クラウドファンディングによるレスキュー活動など、エッジの効いたものが多い。

家具レスキューをただのエピソードだと思う人もいるかもしれない。しかし私の考えでは、それは凡百の博物館学を超えた問題提起のプロジェクトである。日常の雑器は資料なのかそうでないのか。その保存はどの範囲まで考えればいいのか。その



の場合の保存すべき価値とは何か。レスキューの一環として行われた家具の貸出は、ミュージアムの保存の理念を逸脱するのかもしれないのか。SPレコードは針を通すたびににがしか毀損する。それは資料の破壊なのかそうでないのか。

これらの問いに即答できる人はいないだろう。なぜならそれらは博物館資料をめぐる永遠の問いだからである。保存と活用をめぐるのは、これらのきわどい問いを内包しない議論は無効であると思う。それらの問いに、しかつめらしい議論は脇に置いて、傍目には楽しげに挑戦している九大博物館の近年の活動は、まことに刺激的な存在なのである。違う言い方をすれば、私個人にとってはポンチ絵からSPレコードへの行程こそが、ミュージアムについてのまっとうな視点を獲得するプロセスに他ならなかったのである。

それにしても、大学博物館の理念をめぐる悪戦苦闘した人間にとって、理念より最後はやはり人だというのは、あまり良くないオチではある。

- ① 什器のレスキュー風景(2009年)
- ② 筆者近影
- ③ 箱崎キャンパスで展示中のSPレコード関連資料

## COLUMN④

### 九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞(伊藤早苗賞)を受賞

谷澤 亜里 開示研究系・助教



この春、『玉からみた古墳時代の開始と社会変革』(同成社／2020年4月30日発行／348ページ)を出版しました。この本は私の博士論文を元にしており、弥生・古墳時代の玉類の流通に注目して、古墳時代の開始という現象を捉え

なおしたものです。また、著書をはじめとした近年の研究成果を評価いただき、本学で優れた研究成果を挙げた若手女性研究者を表彰する、「2020年度九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞(伊藤早苗賞)」優

秀賞を受賞しました。とても名誉なことで、これからも研究を続けていく励みになりました。

- ① 開学記念式典での授賞式の様子。  
左から2人目が本人



## 展示・講演会関係の活動状況

Activities of Exhibitions & Conferences

### 特別展示

- 九州大学総合研究博物館20周年記念事業  
「九大博20年ものがたり」  
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/kyudaihaku20th/index.html>  
公開○令和2年10月27日(火)  
主催○総合研究博物館

### 連携展示

- 「九州大学のコレクション  
— 大学創設期のアジア学術交流と古地図 —」  
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/exhibition/asiaweek2020/>  
公開○令和2年9月1日(火)  
共催○九州大学附属図書館・九州大学総合研究博物館・九州大学大学文書館

### 巡回展示

- 令和2年度適塾特別展示 武谷栂亭生誕200年記念  
大阪大学・九州大学巡回展「緒方洪庵と武谷栂亭」  
期間○令和2年11月17日(火)～29日(日)  
場所○適塾  
主催○大阪大学適塾記念センター、適塾記念会、大阪大学総合学術博物館、九州大学医学歴史館、九州大学総合研究博物館、九州大学附属図書館

### ラジオ・テレビ出演

- TBS テレビ  
「日立世界ふしぎ発見 日本のポンペイ!? ヨロイの古墳人が語る古代群馬の謎」  
令和2年8月1日(土)  
(資料部兼任教員 九州大学比較社会文化研究院 舟橋京子

准教授)

- NHK ラジオ第一放送とNHK ワールド・ラジオ日本  
「夏休み子ども科学電話相談」・「子ども科学電話相談」  
令和2年8月8日(土)・9日(日)  
令和2年10月11日(日)  
(丸山宗利准教授)

### 協力

- 石ふしぎ大発見展 2020 第26回 大阪ショー  
特別展示「ミステリアスなアンモナイトの世界」  
期間○令和2年7月25日(土)・26日(日)・27日(月)  
場所○大阪天満橋 OMMビル 2F  
特別展示協力○京都大学理学部地質学鉱物学教室、九州大学総合研究博物館、きしわだ自然資料館、和歌山県立自然博物館  
主催○公益財団法人 益富地学会館、石ふしぎ大発見展実行委員会  
後援○京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都新聞社、KBS京都、日本地学研究会

- Kyushu University Asia Week 2020  
「UNIVERSITIES TO GROW SOCIETAL IMPACT」  
期間中、附属図書館、総合研究博物館、大学文書館3館連携によるデジタルアーカイブ Web 展示  
「九州大学のコレクション— 大学創設期のアジア学術交流と古地図 —」を同時開催。  
期間○令和2年9月1日(火)～9月11日(金)  
主催○九州大学 Asia Week 運営事務局

- 広田遺跡ミュージアム開館5周年記念企画展  
「広田人と貝装飾 ～広田遺跡出土品里帰り展～」  
期間○令和2年10月24日(土)～12月20日(日)  
場所○広田遺跡ミュージアム  
展示協力○九州大学総合研究博物館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館  
主催○広田遺跡ミュージアム

## その他の活動状況

Others

### 運営委員会

- 運営委員会  
令和2年6月18日(書面)  
令和2年7月6日(Web)  
令和2年8月27日(書面)



▶ 総合研究博物館では、『博物館活動充実基金』として皆様からのご寄付を受け付けています。

#### 手続きの流れ

1. 当館 HP に掲載の寄附申込書（博物館活動充実基金用）にご記入ください。
2. 事前に博物館事務室までご連絡頂ければ、申込書記入内容の確認をいたします。
3. 寄附申込書原本を、博物館事務室までご郵送願います。
4. 入金依頼書をお送りいたしますので、同封の振込用紙により納入してください。
5. 入金確認後に、御礼状と「寄付金領収書」をお送りさせていただきます。寄付金領収書は税法上の優遇措置に必要ですので、確定申告まで保管して下さい。

※当基金への寄付金は、所得税、法人税、相続税、住民税（自治体により異なります）の優遇措置を受けることができます。

詳細は当館ホームページもご参照ください。

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>

お問い合わせ先：総合研究博物館事務室／電話 ●092-642-4252／メール ●office@museum.kyushu-u.ac.jp

九大博 充実基金

